

## 第5回国際法華經学会報告

報告者 三輪是法

平成14年(2002)5月4日(土)から7日(火)まで、ドイツ・マールブルク大学で、第5回国際法華經学会が開催された。プログラム・日程・参加者は以下の通りである。

5月4日(土)

9:30 ホテルロビー集合

10:30 マールブルク見学

15:00~17:00 オープニング・セッション

挨拶

マイケル・パーイ マールブルク大学宗教学部

ハインリッヒ・メンクハウス 日本研究センター所長

マーク・ミュンツェル 比較文化研究所所長

基調講演

ミヒャエル・ハーン マールブルク大学「インド学における法華經」

マイケル・パーイ マールブルク大学「法華經研究の道程」

17:30 休憩

18:30 マールブルク宗教博物館および仏教特別展示室見学

20:00 会食・懇談会

5月5日(日)

会場: マールブルク大学・宗教学研究センター

9:30~11:00

部会テーマ「法華經の原典研究、物語としての法華經」

進行 マイケル・パーイ

三友健容 立正大学

「新発見・東京大学図書館所蔵『法華經集驗記』写本について」

望月海慧 身延山大学

「インド仏教において法華經はどのように読まれたのか」

三輪是法 身延山大学

「物語としての法華經」

11:00～11:30 休憩

11:30～12:30

部会テーマ「特別部会Ⅰ」

進行 マイケル・パーイ

イェンス・ヴィルケンス マールブルク大学

「法華経と金光明経にみる菩薩の寿命」

池上要靖 身延山大学

「法華経にみるジェンダー」

12:30～14:30 昼食

14:30～16:00

部会テーマ「特別部会Ⅱ」

進行 ブライアン・ボッキング ロンドン大学

小谷幸雄 立正大学

「虚空会における生命中心の演劇—主に見宝塔品から従地涌出品まで」

リチャード・ペーン アメリカ仏教大学院

「法華経の陀羅尼について—インド的文脈にみる言葉の力」

高橋堯英 立正大学

「龍神信仰と法華経」

16:00～17:00 休憩

17:30～20:00

ゲルハルト・マルセル・マルティン マールブルク大学

「經典演劇への招待—法華経の演出」

20:00 夕食

5月6日（月）

会場：マールブルク大学・宗教学研究センター

9:30～10:30

部会テーマ「經典と信仰」

進行 ロバート・ローズ 大谷大学

北川前肇 立正大学

「日蓮聖人の言語信仰にみる不変神話—一文文是真仏」

スンジエザーナ・ゾリック ヴュルツブルク大学

「法華経と靈山大齋—法華経の儀式化と仏教の演出効果」

10:30~11:00 休憩

11:00~12:30

部会テーマ「天台教学における法華經」

進行 ロバート・ローズ

斉藤円真 大正大学

「寂照について」

ポール・グローナー ヴァージニア大学

「戒律と法華經」

塩入法道 大正大学

「天台教学における『觀音經』解釈－觀心と信」

12:30~14:30 昼食

14:30~15:30

部会テーマ「經典論争と生命論争」

進行 アデルヘルト・ヘルマン マールブルク大学

ジャックリーヌ・ストーン プリンストン大学

「法華經と批判、そして日蓮思想にみる国について」

ブライアン・ボッキング ロンドン大学

「法華經の利用と悪用」

15:30~16:00 休憩

部会テーマ「法華經の流通」

進行 アデルヘルト・ヘルマン

ルチア・ドルチェ ロンドン大学

「日本における法華經と密教」

王 仲堯 杭州商科大学宗教研究所

「法華經にみる觀世音菩薩の審美的イメージと中国文化への影響－過去と現在」

マイケル・パーイ マールブルク大学

「巡礼にみる觀音信仰の諸相」

19:00 懇親会

5月7日（火）

会場：マールブルク大学・宗教学研究センター

9:30~11:30

第5回国際法華經学会 総括

(次回大会計画、広報計画などを含む)

12:00~13:30 昼食

14:00 散会

参加者一覧(五十音順)

身延山大学

池上要靖 三輪是法 望月海慧

立正大学

池永英清 小谷幸雄 北川前肇 高橋堯英 仲澤哲史 原 慎定 三友健容

大正大学

神達知純 斉藤円真 塩入法道 張道興志 寺本亮晋 本間孝継

大谷大学

ロバート・ローズ

ロンドン大学

ブライアン・ボッキング ルチア・ドルチェ

ヴァージニア大学

ポール・グローナー

アメリカ仏教大学院

ロバート・ペーン

プリンストン大学

ジャックリーヌ・ストーン

ヴェルツブルク大学

スンジエザーナ・ゾリック

杭州商科大学

王 仲堯

マールブルク大学

ミヒャエル・ハーン マリア・オタヴィア・フレイタ アデルヘルト・ヘルマン

マイケル・パーイ モニカ・シュリンフ イェンス・ウイルケンス